

Newsletter

—学会会報—

The Japanese Society for Curriculum Studies

発行：日本カリキュラム学会事務局

目 次

〈理事会報告 (2023 年 2 月 18 日)〉

■ 審議事項

I 各種委員会の活動について

II 第 34 回大阪教育大学大会について

III その他

■ 報告事項

IV 事務局報告

V その他

〈会計監査について〉

〈日本カリキュラム学会第 33 回大会 名古屋大学 Web 大会 収支決算報告〉

〈第 13 回研究集会 (2023 年 3 月 5 日) 報告〉

〈「日本カリキュラム学会研究奨励賞」候補者の推薦について〉

〈事務局からのお知らせ〉

理事会報告 (2023 年 2 月 18 日)

定例理事会が、2023 年 2 月 18 日 (土) 13 時から 15 時 30 分まで、Zoom を用いたウェブ会議形式で開催された。事務局 3 名を含む 21 名 (うち理事 19 名) の参加があった。

審議に先立ち、松下代表理事より、開会に関する挨拶が述べられた。

■ 審議事項

I 各種委員会の活動について

1. 紀要編集委員会

磯田委員長より、資料に基づき、報告があった。

まず、投稿論文の査読、図書紹介、および、『カリキュラム研究』第 32 号に関わるその他の原稿について、依頼と集約が順調に進められていることが報告された。

次に、12月18日の9時から12時まで、対面とZoomを併用するかたちで、第2回紀要編集委員会が開催されたこと、ならびに、査読結果の審議と課題の整理、電子投稿および引継ぎ事項についての議論が行われたことが報告された。

投稿論文の審査に関しては、19本の自由投稿があったこと、そのうち1本は字数オーバーのため不受理となり、18本（研究論文13本、実践研究論文5本）が受理されたこと、12月18日の委員会で1本が掲載可、7本が再査読となったこと、再査読の結果3本が掲載可となり、最終的に4本（研究論文3本、実践研究論文1本）が掲載されることとなったことが報告された。また、図書紹介については、6冊の推薦があり、委員会における審議の結果、6冊すべてを紹介の対象とすることとなったことが報告された。あわせて、6冊の書誌情報ならびに図書紹介の執筆者が報告された。

2. 国際交流委員会

澤田委員長より、資料に基づき報告があった。

まず、2022年度の「海外カリキュラム研究情報」について、Matthew Knoester, Ph.D. (Ripon College, WI, USA) による"On the Fragility of Democracy and Democratic Schools in the U.S."が2022年末に期限通りに届いたこと、および、翻訳に遅れが生じたものの、2023年2月8日（水）に編集委員会に原稿が送付されたことが報告された。

次に、2023年度の「海外カリキュラム研究情報」については、倉本副委員長を中心に執筆候補者の絞り込みを進め、Lesson Study 関連の現状に関する研究情報をご寄稿いただくことで了済みであること、執筆者については現在調整中であること、今年度内に候補者の決定と依頼を済ませる予定であることが報告された。

さらに、2023年度年次大会（大阪教育大学）での課題研究について、「インクルーシブ教育をめぐるカリキュラム研究の今後を展望する（仮）」で進めることが了承されたことが報告された。あわせて、同課題研究の趣旨および登壇候補者についての提案が行われた。審議の結果、提案のあった登壇候補者への依頼を進めることが了承された。

3. 研究委員会

上地委員長が所用により参加できなかったため、西岡副委員長より、資料に基づき、報告があった。

まず、2023年3月5日（日）に開催予定の「第13回 研究集会」についての周知ならびに参加依頼がなされた。

次に、2023年度年次大会（大阪教育大学）での課題研究について、「カリキュラム・マネジメントの実質化における現状と展望」「道徳の教科化の功罪」の2つのテーマが予定されていること、ならびに、各課題研究の趣旨文、報告予定者、司会・コーディネーターの案が示された。審議の結果、提案の通りに進めることが了承された。

4. 広報・若手育成委員会

根津委員長より、資料に基づき、報告があった。

まず、委員会内で、電子メールで情報や意見を共有しつつ、各企画を進めていることが報告された。

次に、11月23日にZoomで開催された「秋のセミナー2022」（「教員免許更新制の「その後」と教師の学びを考える」）について、最大参加者数が77名であったこと、事前アンケートでは会

員外 65% (n=94)、全体の 54%が短大または大学の教職員、37%は知り合いや関係者からの紹介であったこと、および、同企画に関するまとめの原稿が入稿済みであることが報告された。

続いて、「若手育成」関連企画について、今回は 2023 年 2 月 23 日に実施予定であることと、学生会員向けの読書会を企画し、メール配信済みであることが報告された。

さらに、2023 年度年次大会（大阪教育大学）での課題研究について、長尾彰夫元代表理事から内諾済みであることが報告されるとともに、他の登壇者ならびに進め方についての審議が行われた。審議の結果、従来の進め方に少し変更を加え、「若手」「理事」のいずれか 1 名（従来は「若手」「理事」各 1 名、計 2 名）にご登壇いただき、長尾彰夫元代表理事への質問や論点提示などを行っていただくかたちで進めることが確認された。登壇者については、今後、広報・若手育成委員会内で検討し、依頼を進めることとなった。

5. 学会賞委員会

小柳学会賞委員長が所用により欠席のため、安藤副委員長より、資料に基づき報告があった。

まず、「2022 年度日本カリキュラム学会研究奨励賞の結果報告」について、資料に基づき、第一段投票結果、第二段投票のための審査委員会委員の選出、および第二段投票の実施とその結果が報告された。あわせて、石田智敬会員（対象論文：「スタンダード準拠評価論の成立と新たな展開——ロイス・サドラーの所論に焦点を合わせて——」『カリキュラム研究』第 30 号、15-28、2021 年）が 2022 年度の研究奨励賞受賞候補者として提案された。審議の結果、提案通り、石田会員の受賞が決定した。

次に、前回理事会において指摘があった「研究奨励賞および優秀発表賞における投票段階において、利益相反の疑義を持たれないようにするため、現在自主的に辞退されている理事の投票行動に関わって、どのようなルールを作るか？」という点について、学会賞委員会内での議論の結果をふまえて、以下の対応案が提案された。

- 研究奨励賞および優秀発表賞における、投票段階において、指導関係にある有資格者である院生や共同研究を継続的に進めてきた有資格者に対して、投票権のある理事が、投票を辞退する申し出をされた場合、学会賞委員会は理事会において、どの有資格者に対して辞退が何名あったかを報告することとする。
- なお第一段投票では、推薦理由が重要となるが、併せて投票数によって、上位候補者が細則に基づいて選出されてくることになる。その際、推薦された有資格者に対して、理事から「関係者のためその方への投票を辞退」という旨の申告があった場合には、内数としてその数を（ ）で示した上で、上記の投票時の情報状況について、理事会及び、審査委員会に明らかにし、それを報告するものとする。

この提案について、「利益相反がある場合の投票の可否」「利益相反の基準の設定（利益相反の定義）」を中心に、審議が行われた。審議の結果、研究奨励賞および優秀発表賞のいずれに関しても、「第一段投票については、利益相反となる理事の多さによって候補者に不利が生じないように、利益相反であっても投票する（ただし、利益相反の有無、および、利益相反の内容について申告する）」「第一段投票の結果については、得票数を示す際にカッコ書きにするなどして示す」「第二段投票については、利益相反者を除いて審査委員会を組織し、審査を行う」という方針で進めることとなった。あわせて、「利益相反の基準の設定（利益相反の定義）」については、他学会の例として、以下の内容が情報共有された。

- 一 論文執筆者の研究指導に従事し、または従事したことがあるとき。
- 二 審査対象となる論文の執筆に深く協力したとき。

➤ 三 その他当該学術論文の審査及び選考に加わることがふさわしくない事由があるとき。本件については、引き続き、検討を行うことが確認された。

さらに、2023年度の優秀発表賞審査の進め方について、規程と細則に定められている手続きに沿って審査を進めていきたいこと、および、審査に対する理事への協力依頼がなされた。2023年度の優秀発表賞審査については、新理事会のメンバー（理事）によって行われるかたちとなるため、次回（7月）の理事会の際に、具体的な進め方や注意事項等を、新理事に伝達いただくこととなった。

II 第34回大阪教育大学大会について

木原理事（第34回大会実行委員会委員長）より、資料に基づき、報告があった。

まず、大会日程（2023年7月8日（土）、9日（日）、理事会は7月7日（金））、開催方法（対面を基本とし、ハイブリッドは行わない、公開シンポジウムのみウェビナー配信）、会場（大阪教育大学天王寺キャンパス西館）、実施組織、プログラム、懇親会は行わないこと、大会参加費、シンポジウムの概要、大会までの準備等のスケジュール、共催・後援・助成、外注予定の業務等、広告依頼、大会プログラム・発表要旨作成方針についての報告および提案が行われた。

次に、「日本カリキュラム学会 第34回大阪教育大学大会のご案内」についての草案が提示され、その内容についての説明が行われるとともに、決定すべき事項についての審議が行われた。

課題研究のスケジュールについては、1日目午前「課題研究Ⅰ：カリキュラム・マネジメントの実質化における現状と展望」（担当：研究委員会）および「課題研究Ⅱ：インクルーシブ教育をめぐるカリキュラム研究の今後を展望する（仮）」（担当：国際交流委員会）、2日目午後「課題研究Ⅲ：道徳の教科化の功罪」（担当：研究委員会）および「課題研究Ⅳ：カリキュラムの『不易と流行』を語るⅣ」（担当：広報・若手育成委員会）を行うことが確認され、このスケジュールに沿って、各委員会で準備を進めることとなった。また、開催方法については、対面とし、ハイブリッドは行わない（ただし、公開シンポジウムのみウェビナーを用いる）ことで確定した。

続いて、2023年4月1日より、ガリレオによる新ウェブサイトの運用が開始されることを念頭に置き、それに間に合わせるかたちで、課題研究の登壇者については3月20日頃までに確定のうえで大会校に報告いただきたいことが提案された。審議の結果、提案の通りに進めることとなった。また、それに先立って3月のうちに現行のウェブサイト上で大会に関する基本的な情報を掲載できればと考えているため、課題研究のタイトル（仮のものでも可）については2月末までに大会校に報告いただきたいことが提案され、提案の通りに進めることとなった。

大会校より、大会の参加申込、自由研究発表申込、発表要旨原稿提出、発表資料提出についてはすべて、Webシステムにおいて行うかたちとしたいことが提案され、審議の結果、了承された。

また、大会当日には、ガリレオの社員1名に会場に来てもらい、システムを使った受付や参加費・年会費の当日支払いなどに関する補助を行ってもらうことが大会校より提案された。審議の結果、提案の通りに進めることが了承された。

優秀発表賞に関する周知用の記述（規程など）についても、学会賞委員会内で検討のうえ、3月下旬までに大会校に報告し、大会校より、学会ウェブサイトに掲載できるよう手続きを進めることとなった。

さらに、大会参加費に関する議論の中で、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う理事会のオンライン化などの影響で増加している次年度繰越金の会員への還元方法についての審議が行われた。まず、正会員と臨時会員の参加費については従来通りとし、学生会員については参加費を減

額する（あるいは、無料にする）という案に関して、次回の大会において減額し今後のいずれかのタイミングで元の額に戻すという場合には正当な理由が必要となるが、その理由づけは難しいのではないかとということが議論された。他にも、大会に参加する会員にはその種別に関わらず責任をもって大会運営や大会参加に関わってもらいたい、還元の対象を学生会員に限定するのではなく全会員とする方がよいのではないかと、今後の全般的な物価上昇を見越したうえでの学会会計の見通しをふまえた検討が必要になるのではないかと、といった意見が出された。これらの意見をふまえて審議を行った結果、次回の大会については学生会員の参加費を 1000 円とすること、その後の大会の参加費については継続審議事項とすることとなった。

III その他

松下代表理事より、次々回（2024 年度）の大会校を筑波大学が受諾されたことが報告された。

■報告事項

IV 事務局報告（後掲の「事務局からのお知らせ」を参照）

二宮事務局長より、資料に基づき、「会員現況概要」「寄贈図書一覧」「会計途中報告」に関する報告がなされた。

V その他

1. 理事改選に関する選挙管理委員会の報告および選挙管理委員の選定について

理事改選に関する選挙管理委員会の報告および選挙管理委員の選定の必要性が確認された。本件について、オンラインでの実施が原則となるため集計は不要となるが、オンラインによる立ち会いが必要となることが確認された。そのうえで、事務局で規程等を確認のうえで対応を進め、メール審議にて審議・決定することとなった。

本件については、理事会後の 2023 年 2 月 28 日に、事務局より理事宛に以下の 5 点に関するメール審議の依頼がなされるとともに、会則等の選挙に関連する資料が送付された。

1. 理事・代表理事選挙の手続き確認と選挙管理委員の選出

1) 会則・役員選出規定の確認

- ・会則及び役員選出規定については別紙参照。
- ・会則第 11 条により、理事のうち「選挙による 25 名」を選出する。
- ・代表理事選出規定は会則第 12 条第 1 項「代表理事の選出は当選理事の選挙による」。
（「日本カリキュラム学会 代表理事選挙に関する申し合わせ」（2011 年 3 月 5 日理事会決定）の確認）
- ・役員選出規定第 5 条「理事会は会員中より選挙管理委員会の委員 3 名を指名する」により、理事会が 3 名の選挙管理委員を指名する。また、前例により代表理事選挙についても選挙管理委員会が担当する。

2) 選挙人・被選挙人名簿の作成

- ・役員選出規定第 2 条第 3 項（「選挙権、被選挙権は会員たることを資格条件とする。ただし、

前年度までの会費未納者はその資格を失う。)に基づき、選挙用名簿を作成。

3) 選挙管理委員会

①選挙管理委員の選出

事務局からは以下の方々を選挙管理委員として推薦する。

- ・竹川慎哉会員（愛知教育大学）
- ・吉田茂孝会員（大阪教育大学）
- ・小山英恵会員（東京学芸大学）
- ・選挙管理委員長は3月の第一回選挙管理委員会において互選する。

②選挙管理委員会の役割の確認

- ・新理事(うち25名の選挙による者)および代表理事の選挙

4) 辞退者が出た場合の対応

- ・代表理事については、「代表理事選挙に関する申し合わせ」に沿って対応する。

5) 選挙スケジュール

【省略】

2023年3月6日までの審議期間を設定して審議を行った結果、事務局の提案通りに進めることが了承された。

また、選挙管理委員の決定を受けて、委員3名と二宮事務局長にて、2023年3月15日に第1回選挙管理委員会が開催された。そこでは、選挙に関わる規程と今後のスケジュールを確認するとともに、互選の結果、竹川慎哉会員（愛知教育大学）に委員長をお願いすることとなった。

2. 今後の理事会について

今後の理事会について、以下の要領にて開催する予定であることが確認された。

定例理事会（現理事会）：

日時：2023年7月7日（金）16：00～18：00

開催方法：対面

開催場所：大阪教育大学天王寺キャンパス

定例理事会（新理事会）：

日時：2023年7月8日（土）12：00～13：00

開催方法：対面

開催場所：大阪教育大学天王寺キャンパス

会計監査について

2023年3月9日に、事務局より理事宛に、今年度の会計監査に関するメール審議の依頼がなされた。審議事項の内容は、現在の業務委託先である国際文献社との契約が3月までになるため、今年度の会計監査は3月までの会計処理を会計監査の対象とし、4月以降の会計処理となる『カリキュラム研究』の支払いなどについては、来年度の会計監査対象としたいという提案であった。2023年3月13日までの審議期間を設定して審議を行った結果、事務局の提案通りに進めることが了承された。

日本カリキュラム学会第33回大会 名古屋大会 Web大会

収支決算報告書

2022年11月20日

収入

	事項	金額
11	大会参加費 正会員： ¥2,000 × 173人 学生会員： ¥1,000 × 31人 臨時会員： ¥3,000 × 37人 招待： 22人 計 263人（うち、有料 241名）	488,000
12	協賛金（9社）	200,000
13	助成金（財団）	200,000
	合計	888,000

支出

	事項	金額
1	非会員登壇者謝金	210,000
2	ホームページ委託 ・Web受付システム・印刷・プログラム発送業務：432,097 ・参加登録窓口業務：208,580 ・Web開催サイト：360,800	1,001,457
3	アルバイト代 8名（計167.5時間 × ¥1,200）	201,000
4	Zoom契約料 ZoomPro 1ヶ月（¥2,000）×7 500人参加 1ヶ月（¥6,700）×2 Webinar 500 1ヶ月（¥11,770）×1	41,910
5	振込手数料等	0
	合計	888,000

第13回研究集会（2023年3月5日）報告

テーマ：＜性の多様性＞を教育課程にどう位置づけるか

日時：2023年3月5日（日）13時30分～16時00分

場所：ハイフレックス（広島大学教育部第3・4会議室／ウェビナー）

コーディネーター・司会：草原和博（広島大学）、木原俊行（大阪教育大学）、橋本美保（東京学芸大学）

性的指向や性自認に関する＜性の多様性＞は、個別的な配慮や支援にとどまらず、より適切な生徒指導・人権教育等を通して積極的に取り扱うことが要請されてきた（文部科学省『性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）』2016年）。カリキュラム研究者はこのテーマをどのように引き受け、向き合っていけばよいのか、また学校の教育課程に同テーマを位置付けて子どもを指導しようとするとき、どのような課題・困難が生じてくるのか——本研究集会では、このような論点を設定した。そのために、本研究集会では、こうしたテーマに先進的に取り組む研究者にご報告いただき、参加者と協議し、これからの研究と実践に示唆を得ることを目的に据えた。

当日は、上地完治研究委員長（琉球大学）から、本研究集会の意義や開催の経緯等が説明された。そして、その後、コーディネーター（草原）による本研究集会のテーマ設定や進行に関する説明がなされた。

続いて、以下の報告が呈された。

①社会学（ジェンダー・セクシュアリティ）の研究の成果から

まず、眞野豊氏（鳴門教育大学）から、「＜性の多様性＞を教育課程にどう位置づけるか」というタイトルで、問題提起等がなされた。それは、「学校の中のセクシュアリティを理由とした差別」に関わる先行知見の紹介、「教育課程の中の異性愛規範」の整理、「国際基準の包括的性教育カリキュラム」の紹介、「文部科学省の通知等」の限界の指摘、「＜性の多様性＞とその授業化」に関する理論やモデルの解説、その実践事例の提示、今後の課題の言及等から成るものであった。

この報告に関して、性の多様性に関するグラデーションモデルの可能性と課題、1960年代～1980年代や近年の取り組みの参照可能性などについての質問が示された。

②教科教育に関する研究の成果から

川口広美氏（広島大学）、岩田昌太郎氏（広島大学）、村田一朗氏（大垣市立北中学校）、白石愛氏（福山市立鷹取中学校）、小栗優貴氏（愛知教育大学）は、「＜性の多様性＞についてどのように授業実践していったか—社会科と保健体育科の共同開発研究を通して—」というタイトルの報告をリレー形式で進めた。

次いで、川口氏らは、「＜性の多様性＞についての教育の必要」性を確認するとともに、「性的マイノリティを包摂する自己・社会を構築することを目的とした実践研究」のデザイン・実際を述べ、そこから得られた知見を呈した。この実践研究の特徴は、「教科横断」、しかも合科的な単元の開発であり、社会科と保健体育科の教科教育に関わる研究者・実践者の共同によるもの

であった。それは、5時間扱いの単元であるが、保健体育科と社会科の内容・活動が交差し、共鳴するものであった。報告では、実践研究の概要や詳細が紹介されるとともに、その評価結果（中学生の認識の変化）も提示された。そして、当該共同研究を通じて得られた、性の多様性を追究する教科教育研究の課題とその乗り越え方、展望が述べられた。

報告された実践に関して、コーディネーター（草原）から、教科横断の意図を子どもに開示したのかについての確認がなされ、実践者から「ある程度は開示した」という返答が示された。

質疑応答の時間には、研究集会参加者から、次のような質問が示された。

①性の多様性に関わる新しい取り組みを推進する際に、保護者に対する働きかけをどうすればよいか

②共同研究による授業において、不必要な性別記入を教材化してはどうか

③制服使用についてどう考えるか

④性の多様性を教材化する難しさ

⑤男女という社会的意味を歴史的に把握させる必要はないだろうか

⑥概念が確立していないのに指導できるか

例えば、①については、「保護者の啓発も教育者の役割なので、保護者にも参加してもらう実践に取り組む」（眞野氏）という回答が示された。

また、②については、「クィアペタゴジーの観点から、男女のあり方を揺さぶられる場面を設定したかった」と、村田氏・小栗氏は述べた。

④については、「子どもが当然視しているが見えていないことがある、言語化の必要性がある」（白石氏）、「その場所に当事者がいることを前提にしなければならない」（岩田氏）、「実践者の意欲が異なる」（川口氏）といったコメントが呈された。

本集会のねらいに即して、コーディネーター（橋本、木原）がまとめをおこなった。例えば、性の多様性に関する研究・実践が教育学の普遍性を帯びていること、教科の越境や教師の共同を伴うものになることが言及された。また、カリキュラム研究としての先導性や将来性、カリキュラムと社会の関係の再認識に寄与するものであることなども、再確認された。

最後に、松下佳代代表理事（京都大学）が本研究集会の内容を総括するとともに、登壇者・参加者等への謝意を表した。

なお、研究集会の参加者数は、対面参加約10名、オンライン参加約50名であった。

（文責 木原俊行）

「日本カリキュラム学会研究奨励賞」候補者の推薦について

2019年度の規程改正により、研究奨励賞の応募の方法と締切が、「会員の他薦により、この賞に応募する旨、毎年10月31日(必着)までに、所定の推薦書により申し出る(著書ないし論文1部を提出)」となりました。会員のみならずからの推薦を募集しておりますので、是非、ご応募ください。研究奨励賞についての詳細は、学会HPにてご確認いただけます。

事務局からのお知らせ

1. 会員現況報告 (2023年2月9日時点)

■会員総数 711名 (一般会員631名、学生会員73名、団体会員7件)

※連絡先不明者7名、会員資格一時停止者27名を含む。

【内訳】(入会者・退会者は2022年11月8日以降の報告)

新規入会者：1名

退会・強制退会者：0名

一時資格停止者：27名

連絡先不明者：6名

2022年度からの新入会者：27名 (一般：19名、学生：8名、団体：0)
--

■会費納入率 (2023年2月9日時点)

2022年度：完納616名 未納68名 計684名 90.0%

2021年度：完納644名 未納13名 計657名 98.0%

※連絡先不明者7名含む、会員資格一時停止者27名除く。

■新規入会者 (2022年11月8日～2023年2月9日) 1名

	入会年月日	氏名	所属	区分	推薦者
1	2022/11/18	後小路 正人	所属非公開希望	一般会員	事務局

※入会年月日は、入会金の振り込みがあった日付になります。会員番号は入会申し込みが届いた日になります。上記の順番は会員番号順です。

■退会者 (2022年11月8日～2023年2月9日) 0名

2. 寄贈図書一覧 (2022年7月1日～2022年11月17日到着分)

著者名	タイトル	出版社等	発行日	受領日
松下佳代、前田秀樹、田中孝平 (著)	対話型論証ですすめる探究ワーク	勁草書房	2022/11/25	2022/12/9
メイラ・レヴィンソン (著)、渡部竜也、桑原敏典 (訳)	エンパワーメント・ギャップ：主権者になる資格のない子などいない	春風社	2022/11/13	2022/12/15
山名淳 (編著)	記憶と想起の教育学：メモリー・ペダゴジー、教育哲学からのアプローチ	勁草書房	2022/12/20	2023/1/6
木村裕 (編著)	中学校 全教科・教科外で取り組むSDGs：ESDの実践づくりの要点とアイデア	学事出版	2022/12/25	2023/1/26

西澤哲、西岡加名恵(監修)、小野太恵子、木村幹彦、塩見貴志(編)、才村眞理、下川隆士、竹内和雄、辻由起子、橋本和明、大阪市立生野南小学校、田島中学校(著)	『生きる』教育:自己肯定感を育み,自分と相手を大切にする方法を学ぶ(生野南小学校教育実践シリーズ第1巻)	日本標準	2022/10/20	2023/1/18
ジョン・ハッティ、レイモンド・スミス(編著)、原田信之(訳者代表)	スクールリーダーのための教育効果を高めるマインドフレーム:可視化された学校づくりの10の秘訣	北大路書房	2022/12/20	2023/1/18
石井英真(著)	中学校・高等学校 授業が変わる学習評価深化論:観点別評価で学力を伸ばす「学びの舞台づくり」	図書文化	2023/1/20	2023/1/18

3. 会計途中報告(2022年4月1日~2023年1月31日)

収入の部

項目	予算額(円)	実績(円)
学会年会費	5,000,000	4,884,000
入会金	80,000	54,000
学会誌代・雑収入・利子等	50,000	33,017
第33回大会収入(除く補助費)	700,000	690,000
寄付	0	0
前年度繰越金	10,142,247	10,142,247
合計	15,972,247	15,803,264

支出の部

項目	予算額(円)	実績(円)
第33回大会補助費	0	0
第33回大会支出(除く補助費)	2,100,000	1,806,577
第32号紀要刊行費(含む発送費)	700,000	35,200
学会研究奨励賞費	50,000	50,000
会合費(交通費他)	1,300,000	0
事務局経費	150,000	73,725
事務局外部委託費	1,600,000	1,471,006
ホームページ委託運用費	250,000	92,400

財) 日本学術協力財団賛助会費	50,000	50,000
教育関連学会連絡協議会会費	10,000	10,000
各種委員会経費		
紀要編集委員会	100,000	45,458
国際交流委員会	100,000	0
研究委員会	300,000	0
広報・若手育成委員会	300,000	66,822
学会賞委員会	100,000	0
(小計)	900,000	112,280
理事・代表選挙経費	300,000	0
学会業務の ICT 化のための経費	1,500,000	0
予備費	200,000	0
次年度繰越金	6,862,247	12,102,076
合計	15,972,247	15,803,264

4. 学会の会員窓口の移管および新会員管理システムの運用開始について

2023年4月1日をもちまして、新会員窓口への業務移管が行われるとともに、新会員管理システムの運用が開始されました。

新会員窓口：

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2丁目39-2-401

(株) ガリレオ学会業務情報化センター内

TEL 03-5981-9824 / FAX 03-5981-9852 *電話受付 平日 11:00~16:00

E-mail : g050jscs-support@ml.gakkai.ne.jp

会員の皆様へは、新システムの会員IDおよびパスワードを郵送にて、3月末に発送を行っております(普通郵便のため、到着は4月3日以降)。お手元に届きましたら、内容を確認いただき、新会員管理システムにてご自身の情報をご確認ください。なお、まだ郵送物が届いていない場合には、新会員窓口へお問い合わせください。

お手数をおかけいたしますが、ご確認いただけますよう、お願い申し上げます。

5. 令和4年度(2022年度)分会費納入のお願い

今年度分の年会費が未納の会員の方は、納入をお願い申し上げます。2023年2月9日時点での2022年度会費の納入率は90.0%です。納入促進に、会員のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、前年度(2021年度)分までの年会費が未納の会員の方におかれましては、未納分の年会費の納入もあわせてお願い申し上げます。

会費納入状況につき、ご不明の点がございましたら、ご遠慮なく(株)ガリレオ学会業務情報化センター内・日本カリキュラム学会会員窓口(※2023年4月1日より新会員窓口へ移管されました)までお問い合わせください。

(年会費：一般 8,000円、学生 5,000円、団体 10,000円)

【 入退会、年会費、会員情報の変更、紀要販売等各種問い合わせ先 】

〒170-0013

東京都豊島区東池袋 2 丁目 39-2-401 (株) ガリレオ学会業務情報化センター内

TEL 03-5981-9824 / FAX 03-5981-9852 *電話受付 平日 11:00~16:00

E-mail : g050jscs-support@ml.gakkai.ne.jp

【 上記以外の学会運営に関する問い合わせ先 】

〒640-8510

和歌山市栄谷 9 3 0 和歌山大学教育学部 二宮衆一気付

日本カリキュラム学会事務局

E-mail : jscsstaff@gmail.com

※ 2022 年 4 月 1 日をもって、学会事務局のメールアドレスを変更いたしました。

【 学会ホームページ 】

URL : <http://jscs.b.la9.jp/>